



ボランティア・センター

～ 龍谷大学の取組 ～

□ 設立経緯

龍谷大学では、阪神・淡路大震災でボランティアやNPO等の重要性が注目されたことを背景に、1997年に教員有志がボランティア・センターの必要性を大学に訴えたのが最初のきっかけとなっているとのこと。その後、全学の第4次長期計画策定作業の中で、学生に対してボランティア活動を紹介することを通じて学生の学習意欲を刺激し、現場での経験に基づく創造的能力を養うという教育的目的を併せ持つ大学の一機関として位置づけられることになり、2001年に「龍谷ボランティア・NPO活動センター（以下、センター）」が設立された。

□ 活動内容

深草キャンパスと瀬田キャンパスの2つのセンターで構成され、それぞれに約50名ずつの学生スタッフが登録し、広く学生のボランティア参加促進のための企画や相談対応を担っている。また、センターの専門職員として、それぞれのキャンパスに2人ずつ計4人のボランティアコーディネーターが、学生のサポートや学外のNPO等からの相談対応をしている。NPO等に学生ボランティアを送り出すときは、単なる労働力として学生を見るのではなく、学生への教育的配慮を求めている、そのような配慮が無い場合は連携を断っているとのこと。

ただし、最初はそうした意識に欠ける団体であっても、コーディネーターがコミュニケーションをとっていくうちに、学生の力が活かされるような内容に改善されたり、学生へのより良い関わりが期待できるようになることもある。その場合には学生を送り出すようにしているとのこと。

□ 連携先

センターを通してボランティア募集を希望する団体は、年に1度、法人格の有無にかかわらず、センターに団体登録・更新することとしている。この際、可能な限り団体の担当者と面接をして活動内容等を確認する等、団体の信頼性を担保するようにしている。団体登録の基準はホームページにも公開しており、その中にも「受け入れた学生に対し、教育的配慮を伴った対応が可能なもの」という基準を設けている。ここでの教育的配慮とは、活動の目的等のオリエンテーションの実施や、活動後に学生に対して振り返り等の学習の機会を持ってほしいということ。2014年度は176団体が登録している。ただし、活動への参加は、あくまでも学生の自由意志であるため、登録されている176団体の全てに紹介されているわけではないとのこと。こうした登録団体以外にも、災害時の対応や地元の地域活性化の取組等で様々な団体と連携・協働している。

団体等については関西地区大学ボランティア・センター連絡協議会に参加している他大学のボランティア・センターや、大阪ボランティア協会、京都市市民活動センター等とも常に情報交換を行っているとのこと。

□ 教職員への影響

当初は必要性について懐疑的な見方もあったが、活動を行っていくうちに理解が深まってきたとのこと。また、東日本大震災以降は特に理解が深まったとのことで、その後の災害発生時にはセンターと日頃関わりを持っていない教職員、学生もここならば情報が集まっているだろうと訪ねてくることが多くあり、活動について相談を受けた。

さらに、海外のNPO等と独自のネットワークを持つ教員の協力を得て、海外体験学習プログラムも実施している。このプログラムは学生の学びが深くなるように、事前学習会、活動後のレポートの提出、事後学習会、レポート集の発行、報告会と一連の流れで取り組んでいるとのこと。

このほか教員等からセンターにコミュニケーションの苦手な学生をどうしたら良いかという相談や学生の居場所について相談を受けたりもしている。また、センターには常に学生が集っているため、生の学生の声が聞きたいときに学内の入試部、広報部、キャリア支援等の部署からも頼りにされているとのこと。活動資金の面でも、東日本大震災の復興支援ボランティアについては、大学としての年度予算や学生からの参加費等に加え、協力する教職員から給料天引きでの寄附を集めている。

□ 学生への影響や期待

龍谷大学では、センターでの学生スタッフの活動は、単位や成績と一切関係がない。また、活動費用についても補助は行っているが、全額補助という形は取っていない。単位等が認められておらず、ある程度費用が掛かったとしても、多数の学生が活動に魅力を感じて参加しているとのこと。学生スタッフとして活動を継続している背景の一つに、年に1回必ずコーディネーターが個別面談をしており、学生と一緒に成長や課題について話し合っていることが挙げられる。登録はしたが活動にこない学生に対しては、来年も継続するかどうかも含めて話し合いを行っている。

学生スタッフの中には、当初引込み思案な学生も多いが、ボランティア活動を通じて自分のやれることに対してしっかり取り組むことでエンパワーメントされ、4年生になれば見違えるほどたくましくなるとのこと。また、学生には卒業後も引き続き市民活動に参加して欲しいし、その中でもリーダー的な役割を担って欲しいと考えているとのこと。

(学生の声)

- A氏(男性)：ボランティア・センターでの活動を通じて、自分でもたくましくなり、芯ができたと思います。1年のときに震災ボランティアとして石巻に入りがれき処理を行いました。30人で1日1軒しかできませんでしたが、最後に泣きながらありがとうと言われたことが印象に残っていて、このときボランティアの意味を初めて知ったと思いました。
- B氏(女性)：中心メンバーとして取り組む中で、企画作りやコミュニケーションの楽しさに気付きました。ボランティア・センターに入ってやりたいことが見つかったのが自分に影響を与えたことだと思います。今後も色々な人と関わってつながっていきたいです。



龍谷大学 ボランティア・NPO 活動センター

設立年	2001 年
センター長	社会学部教授 筒井 のり子
所在地	深草キャンパス：京都府京都市伏見区深草塚本町 67 瀬田キャンパス：滋賀県大津市瀬田大江町横谷 1 番 5
URL	http://www.ryukoku.ac.jp/npo/index.php